

事業所名

さくら総合発達支援センター ほーぷ

支援プログラム（居宅訪問型児童発達支援）

作成日

2025 年

3 月

10 日

法人（事業所）理念		個々に寄り添ったきめ細やかな支援を提供する				
支援方針		ひとりひとりのお子さんの状況に合わせた支援を行い、心身の成長・発達とともに、社会的な成長を促すことを大切にしています。保護者の方とは、毎日の生活の中で生じる困りごと、心配ごとについて一緒に向き合っていきます。同時に、たくさんの嬉しいこと、楽しいことを共有して、お子さんが安心して過ごせるように職員一同お手伝いしていきます。				
営業時間		9 時	0 分から	17 時	0 分まで	送迎実施の有無 あり
支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	健康状態に変化がないか気を付けながら、生活リズムが整うように支援します。必要に応じて、食事・排泄の方法を身に付ける練習を行います。食事の際の姿勢、咀嚼・嚥下の力を評価し、食べる力の育成と食事が楽しくなるような環境配慮を行います。排泄機能を評価しながら、ご家庭と連携しトイレトレーニングを行います。全身状態の観察と医療的ケアを実施します。				
	運動・感覚	運動、バランス感覚、力の強弱、距離感など、様々な感覚・感触を体験し、からだの機能の発達を促す支援を行います。得意・好きな感覚に偏らず、嫌いな感触にもチャレンジすることで苦手を克服し、不快な感覚が少なくなるように支援します。個別リハビリテーション（理学療法、作業療法、言語聴覚訓練）を取り入れていきます。				
	認知・行動	発達状況に応じて、数字や文字を使用した活動を行います。朝の会で日付や天気の確認、呼名に返答する練習を毎日行い、繰り返しの練習を行っていきます。上手にできたこと、出来るようになったことに対しては前向きな言葉かけを行い、「楽しい」「やってよかった」という感情を引き出す支援を行います。				
	言語コミュニケーション	触れ合い遊びや感覚遊びを大切に、喜怒哀楽を引き出す支援を行います。それぞれの意思表示の方法を確認し、より多くの表現や新たな表現を獲得できるように言語的・非言語的なやりとりを行っていきます。必要に応じて、文字盤や絵カードなどを活用していきます。				
	人間関係社会性	他者との交流の時間を作り、順番を待つことや他者の感情に気付くなど、人間関係に必要な決まり事や距離感を学べるように支援します。外出の機会を利用して、図書館や児童館など公共施設で過ごす時間を作っていきます。				
家族支援		保護者やきょうだい児のリフレッシュ時間を提供できるように、レスパイトケアとしての役割を担います。モニタリングや保護者会を通して、情報共有や困りごとを一緒に解決していきます。		移行支援		保護者への情報提供や移行先の見学相談の調整を行います。就学に向けて相談員と連携していきます。
地域支援・地域連携		他事業所との情報共有を行います。関係機関と連携し、必要に応じて支援会議を行います。		職員の質の向上		日々の支援の振り返り、インシデント報告の共有を行います。参加必須の内部研修（虐待・身体拘束、感染予防、一次救命処置）を行います。外部研修へ適宜参加していきます。
主な行事等		保護者会 卒園・卒業遠足 夏季休暇の外出 季節のイベント（夏祭り、ハロウィン、クリスマスなど） 避難訓練 地域のイベント参加（初詣、お花見、秋祭りなど）				